<p>13 子供に、言葉の形態だけが伝わったのか、それとも意味内容まで伝わったか（「分かる」ということ）を確かめながら授業を進めていますか？</p> <p>*子供の「分かる・分かった」→「考える」につながる大切なことです。</p>
<p>14 「分かりましたか？」と言って、子供の理解度を確かめていませんか？</p> <p>*子供はたいいてい「わかりました。」と答えます。学年や理解度にもよりますが、実際にやらせる・分かったことを言わせる・違う角度の質問をする・書き言葉（書かせる）等で、確かめるようにしましょう。</p>
<p>15 子供との応答関係は成立していますか？</p> <p>*T「どこに行って来ましたか？」 子「家族で買い物に行って、服を買ってきました。」のように（Tと子供が逆の場合も同じ）、曖昧な応答関係だと、何を答えてよいのかも曖昧になり、教科指導につながりません。正確な応答関係を。 ★口声模倣</p>
<p>16 自分の言葉や表現方法（子供との言葉のやりとり）が、子供のレベルに合っていますか？また、レベルアップを意識していますか？</p> <p>*聴覚障害は情報が入りにくい障害でもあります。読書等を通じてどんどん言葉を増やせる子供ばかりではありません。身近な大人が意図して言葉や表現方法、知識を入れていく必要があります。 【5歳の坂・9歳の壁】 ★口声模倣</p>
<p>17 子供からの表出を拡大解釈していませんか？</p> <p>*子供がどの程度話したり書いたりできるのかの実態把握が必要です。客観テストや日頃の話し言葉や日記等の書き言葉を把握しておきましょう。そうでないと子供の理解できない日本語（言葉・表現）ばかりが、授業中飛び交うことになります。</p>
<p>18 有効な視覚的手段を授業に持ち込んでいますか？</p> <p>*実物・絵・写真・本・本文そのもの・これまでの授業の掲示物等。 もちろん、分かりやすい板書も子供が学習を整理する有効な手段となります。確実に伝えたいことは書きましょう。</p>
<p>19 いろいろな音（声）の存在を聞かせたり、知らせたりしていますか。</p> <p>*音や声で状況を判断したり理解したりすることは多いものです。また、周囲に不快感を与えることもあります。（マナーにも関係）補聴器や人工内耳では拾えない音の存在も教えましょう。</p>
<p>20 1日に1つ、教科以外の「新しい言葉」「新しい知識」を教えようという気持ちで教室に向かっていきますか？</p> <p>*ニュース・行事・季節天候・最近の話題など。知識・興味を広げられるように。</p>

H22. 3～

R 4. 3 改予定